

平成 19 年度最終報告書

(様式 10)

被助成者 水野 正巳 印

コード番号 06-A-265

1. 活動の目的

特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会は、ネパール西部の僻地において、地域の環境を保全し、地域を活性化するための活動を長年つづけてきた。

活動地域の北部、カリガンダキ川上流域には、少数民族である、ネパール系チベット族（ボテ族）とタカリー族がくらしている。ネパール系チベット族は、中華人民共和国チベット自治区に住むチベット人とはちがい、ネパール国内に住む民族であり、ヒマラヤの南麓で、チベット仏教を中核にした独自の文化を築いてきた。

私たちの調査によると、近年、このような僻地にも近代化の荒波がおしよせてきており、貨幣経済が浸透、現金収入源がない村々は貧困にあえぐようになってきている。出稼ぎに出る者、都会へ出る者も非常に多い。それにともない、地域社会や地域の伝統文化は崩壊しつつある。このような厳しい状況を鑑み、ネパール国内で光のあたっていない少数民族こそ支援すべきだという方針のもと、カリガンダキ川上流域において、伝統文化を生かしつつ地域を活性化することを目的に、教育支援・文化保全事業を開始することにした。

ネパール系チベット族はチベット語を母語とするが、現在学校ではチベット語は教えられておらず、ネパール語が教えられている。このままではチベット語、ひいては独自のネパール系チベット文化は滅びてしまう。現に、近隣に居住するタカリー族やマガール族はすでに母語を失ってしまった。そこで私たちは、子供たちに対するチベット語教育をただちに始めるべきとの結論にいたった。今ならまだ間に合うからである。

カリガンダキ川上流域でくらすもう一方の少数民族、タカリー族に関しては、母語であるタカリー語はすでに失われているので、母語教育はすることはできない。もう手遅れである。そこで私たちは学校教育に着目した。この地域の学校は大変貧しく、自然科学の教材・用具などがまったくそろっていない。このままでは、頭で知識を暗記させるだけの教育がつづくだけであり、子供たちが地域の自然に関して正しい理解をすることはできない。このような状況を鑑み、子供たちが地域の独自の自然について深く理解できるようになることを目的に、自然科学教育を支援することにした。

2. 活動の内容と方法

(1) チベット語教育

ネパールムスタン郡ジョムソンにおいてチベット語教育プログラムを実施する。生徒は、ジョムソンのみならず、近隣の村々から公平に募集する。集中教育プログラムの日数はのべ 30 日とし、

学校の正規の授業ではチベット語教育はできないので、授業のない休日などを利用して、合宿方式で授業をおこなう。その他、個別指導とフォローアップを随時おこなう。子供たちの宿泊費・文房具はこちらから支給する。テキストは、ラサにて発行されたチベット語入門テキストを使用し、今回は入門編をおこなう。教師は、ジョムソン在住の Dr. Tsampa Nwang Gurung がつとめる。

(2) 自然科学教育

基礎的な物理実験と化学実験ができるように指導する。理科実験用具は、ネパールの首都カトマンドゥで購入する。基礎的な物理実験と化学実験、およびそれぞれの理論教育をふまえ、それを、地域の自然理解を理解するために、地球物理学的理解、地球化学的理解へと発展させる。さらに、地域のフィールドワークをおこない、実地教育を通して理解を深める。

3. 活動の実施経過

(1) チベット語教育

2006年11月：ヒマラヤ保全協会スタッフと関係者が現状を確認し、プログラムについて協議、計画を立案した。

2006年12月16日～2007年1月14日：カリガンダキ川上流域に位置するムスタン郡ジョムソン村において、第1回チベット語教育集中プログラムを実施する。この時期をえらんだのは、通常の学校が冬休み期間中であり、チベット語教育に十分な時間をとり、集中的に訓練をすることができるからである。会場は Dancing Yak Lodge であり、合宿形式でプログラムを実施した。講師は Dr. Tsampa Nwang Gurung であった。プログラムに参加した生徒は以下にしめすのべ17人であった。

Name list of students

S/N.	Name	Address	Remarks
1	Takla Gurung	Jomsom, Jomson VDC	
2	Sonam Tshiring Gurung	Khinga village, Muktinath VDC	
3	Tensin Dolma Gurung	Khinga village, Muktinath VDC	
4	Pasang Tashi Gurung	Khinga village, Muktinath VDC	
5	Tshiring Sangmo Gurung	Chhingur village, Jhong VDC	
6	Suku Gurung	Puthang village, Marpha VDC	
7	Tshiring Gombo Gurung	Putak village, Jhong VDC	
8	Lymo Gurung	From Dolpa District	now living in Jomsom
9	Ram Gurung	Chhingur village, Jhong VDC	now living in Jomsom
10	Pasang Bhuti Gurung	Chhingur village, Jhong VDC	
11	Tshiring Gunsang Gurung	Chhingur village, Jhong VDC	
12	Laxman Gurung	Chhingur village, Jhong VDC	now living in Jomsom

13	Pasang Gurung	Jomsom, Jomsom VDC	
14	Santosh Gurung	Kagbeni, Kagbeni VDC	now living in Jomsom
15	Phenjum Gurung	Jomsom, Jomsom VDC	
16	Lama, Chhiku Tshiring	Shyang village, Marpha VDC	Lama of Shyang village
17	Jhoma, Karma Chhuten	Muktinath VDC	Jhuma of Thurbachhuling Gumba

プログラムは、午前8時から昼食をはさんで午後4時、さらに午後6時～8時まで毎日つけられた。まず、チベット語入門としてアルファベットと数の勉強をした。その後、挨拶や基礎会話、基礎的な読み書きの訓練へとすすんだ。

プログラムの合間をぬって、チベット仏教寺院、修道院、博物館の見学もおこない、チベットの伝統文化についても学んだ。

2007年2月～9月は、休日を利用して、チベット語の個人指導ならびにフォローアップを随時実施した。

2007年10月10日～24日には、第2回チベット語教育集中プログラムを第1回同様に実施した。

これらのプログラムの結果、生徒たちは自宅において家族との基本的な会話、基礎的な読み書きはチベット語でできるようになった。また、年配者の話も基礎的な部分についてはチベット語で聞き取れるようになった。子供たちが、年配者の話を母語でききとれるようになり、それをさらに後世につたえていくことはきわめて重要な文化保全事業である。

(2) 自然科学教育

2006年11月、カリガンダキ川上流域に位置するトゥクチェ村のYogendra Secondary Schoolの教員とヒマラヤ保全協会スタッフとが会合をもち、現状を把握し、年間計画を立案した。また、自然科学教材について検討し、必要な教材はあらたに作ることにした。

2007年1月～2月、自然科学教育のための用具を購入した（リストは以下にしめす）。

	実験用具名	量
1	アルコールランプ	2
2	ビーカー 50 ml.	5
3	ビーカー 100 ml.	5
4	ビーカー 250 ml.	5
5	ビーカー 500 ml.	5
6	水おけ	2
7	穿孔器	5
8	気圧計	1
9	滑車	10
10	三角フラスコ	10
11	ボルト・メーター	4
12	ウォルフボトル	5
13	比重計	2
14	モーター	1
15	化学薬品	20
16	スライド	10
17	充電器	2
18	充電電池	diff. sizes
	合計	

理科教育は、正規の授業として、ヨジェンドラ校の1年生から8年生までの生徒に対して、Govinda Shrestha 校長先生と、Bisnu Thakali 先生が担当した。同校は8年生までしかない。

今回のプログラムにより、生徒たちは、基礎的な物理実験、化学実験ができるようになった。さらに、それを踏まえて、地域の自然の地球物理学的理解（地形、地質構造、気象、気候）、地球化学的理解（水質、公害）へと発展させることができた。地域の自然を理解するために、野外自然観察も随時おこなった。

カリガンダキ川流域は、ヒマラヤ山脈を南北に切る大地溝帯であり、この流域でくらす、今回支援した少数民族タカリー族は、この川を現地語で「タック川」とよび、この流域にくらすので民族名は「タカリー」となった。カリガンダキ川は水資源を供給するだけでなく、ヒマラヤの南北をむすぶ交易路として重要であり、これは、この地域の地形や地質、気候条件がなどの自然環境にめぐまれていたために可能になったということを理解することができた。また、自分たちがくらす地域が、ヒマラヤ中間山地とヒマラヤ高地の自然環境を理解するための絶好のフィールドであることも理解した。

4. 活動の成果

ネパールにおいても、少数民族固有の伝統文化は今まさに失われつつあり、地域社会は崩壊しつつある。私たちの事業は急を要するものであるから、短期的には、とにかくすぐに始めることに大きな意義があった。

チベット語教育では、まず17人の生徒がチベット語を学び始め、基礎的なチベット語の会話や読み書きができるようになった。チベット語継承の第一歩が踏みだされ、これが基礎になり将来の展望が開ける可能性が見えてきた。自然科学教育では、教材や実験用具が整備され理科室が充実するとともに、子供たちが地域の自然に関して正しく理解できるようになった。

このような取り組みを通して、カリガンダキ川上流域の子供たちは、自分たちが生まれ育ち暮らす地域について理解を深めていくことができた。地域に根差した教育の実施により、地域の個性、地域性を生かす道が開かれ、ひいては、地域住民に郷土愛が生じ、この地域に暮らす少数民族が築き上げた独自の伝統文化が守られ、継承されていく。そして、自らの文化を守りながら、地域の活性化に取り組めるようになる。

私たちの実践は、伝統文化を継承しながら地域を活性化させていこうというものであり、このようなモデルを、ネパール西部のカリガンダキ川上流域でつくりはじめることができた。これが成功すれば、他の地域に暮らす少数民族にも自信を与えることができる。これは、少数民族が誇りをもって生きられる道を切りひらくことであり、アーリア系民族（ヒンドゥー教徒）が多いネパールにあっても、少数民族が誇りをもって生きられるようにすることである。

そして、多民族国家ネパールは、少数民族が撲滅されることのない、多民族が共存共栄できる社

会になる。少数民族に対する支援は、ネパールの平和構築に寄与する道につながっていく。

5. 今後の課題

自然科学教育はひとまず一定の成果をおさめ、あとは、教員と生徒の自助努力で今後進展を見せることが予想される。

チベット語教育については、とりあえず第1ステップが終了したのみであり、今後第2ステップ、第3ステップへとあがっていかなければならない。同時に、より多くの生徒たちがこの教育を受けられるように体制をととのえなければならない。

また、このプログラムは母語教育が目的なのではなく、それをきっかけにして、自らの文化をまなび、ネパール国内の少数民族であっても自らの文化に誇りを持って、他の民族とつきあい、共存共栄し、多民族国家ネパールの平和を実現することが目的である。

このような観点から長期計画を今後立案し、ステップアップ方式で、このプログラムを発展させていく必要がある。